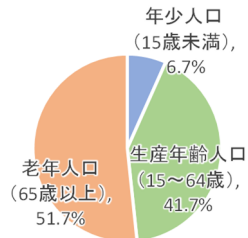


高末 (たかすえ)

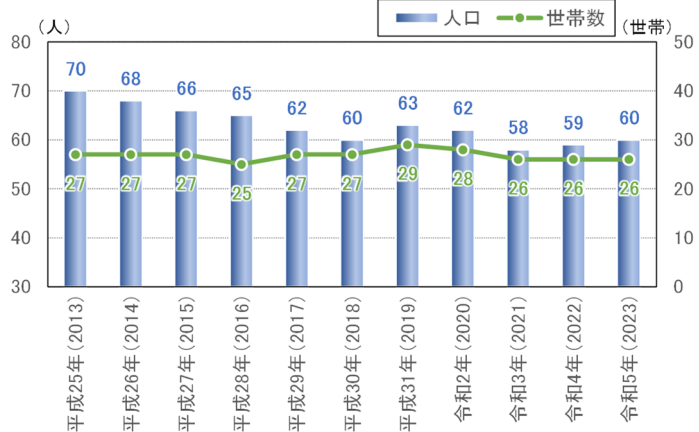
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	60人
世帯数	26世帯
高齢化率	51.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の東西は山で、南北に細長く家屋が散在する。集落の中を県道山田新温泉線が走り、西側の山裾を久斗川が北流する。集落の北側と西側から南側に田畑が開ける。

地名由来 「鷹据」の転化とし、古代に鷹を飼って鳥を捕らえる職業部に由来するという説(『校補但馬考』)や、南北朝の頃、因幡国高草郡松上谷から松上大明神を背負って移住し、当時は高草村といい、後に高末村と称したという説(『美方郡誌』)、集落はもと久斗川の氾濫を避けて、山のより高所にあり、その上の方を小字家の上といっており、地形から高(たか)末(すえ、末端、先端)ではないかという説(「たじま地名考」日本海新聞)がある。

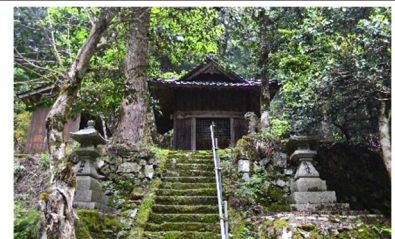
歴史等 集落の対岸の尾根から古墳時代には出雲地方との関係を裏付ける高末引谷古墳が出土している。かつて集落の一つは、川向こうの新谷、大谷にあったという伝承があった。弘治3年(1557)の『但馬国にしかた日記』に新谷村が記載されており、伝承が確認された。近世の高末村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は82石余。

明治22年(1889)大庭村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数30、人口は男77・女87。かつては養蚕業でにぎわい、製糸工場が置かれたこともある。

これまで把握している文化財

文化財の件数 12件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	0	
		石造物	0	0	
		工作物・その他の構造物	1	0	
	美術工芸品	彫刻	0	2	0
		絵画	0		0
		工芸品	0		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	2	0	0	
	音楽	0		0	
	演劇	0		0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	工芸技術	0	1	0
		その他の無形文化財	0		0
		信仰の場	1		0
		祭具	0		0
	無形の民俗文化財	民具	0	1	0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
		年中行事・民俗芸能	0		0
記念物	遺跡	民俗技術	0	5	0
		食文化	0		0
		民間説話・俗信	1		0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
		散布地・集落跡・生産遺跡	2		0
		古墳・その他の墓	2		0
	名勝地	城館跡・寺社跡	0	0	0
		街道・古道等	0		0
		戦争遺跡	0		0
	動物・植物・地質鉱物	その他の遺跡	1	2	0
		山岳・高原・丘陵	0		0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
河川・滝・溪谷・湖沼		0	0		
文化的景観	公園・庭園	0	0	0	
	その他の名勝地	0		0	
伝統的建造物群	動物	0	2	0	
	植物	2		0	
伝統的建造物群	地質鉱物	0	0	0	
	生活・生業・風土により形成された景観地	0		0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	0	



高末松上神社



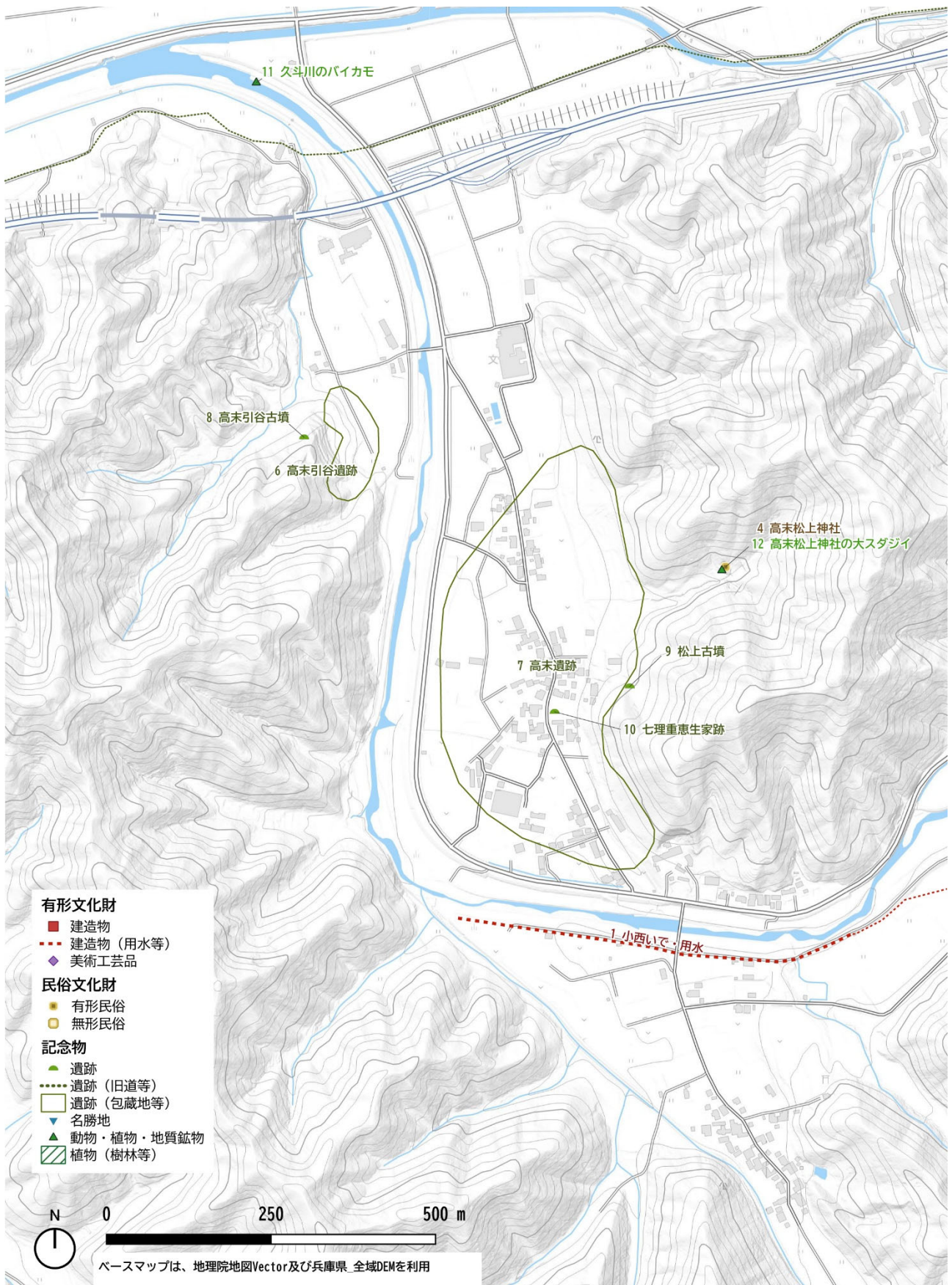
高末引谷古墳(土器棺)



七理重恵生家跡

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-14 高末

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 建造物	1	小西いで・用水	辺地一帯は、長年水不足に悩まされた地域であった。江戸末期の安政年間（1855～1860）、当地の小西安兵衛が、用水路の建設に取り掛かった。工事は、豊岡藩からの財政的援助や役人の派遣等のもと、当時因幡・但馬で多くの用水路工事を手掛けていた八田村の「黒鍬組」も参加して進められた。しかし、工事の最中に時代が明治へと変わり、豊岡藩からの借入金の即刻返還が必要となるなど、工事の存続が危ぶまれた。この時、安兵衛が私財をなげうって工事を続行させ、明治4年（1872）頃、全長約1km、一部が田の下の深さ4mを通り、底板・横板・天井板の4枚の石板で構成された、他に例を見ない大規模な用水路が完成した。その後小西家は辺地を離れたが、昭和初期頃までは天隣寺（対田）において、年に一度「小西おどり」が行われていたと伝わる。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	2	岡村弘文書	文禄3年（1594）「太閤検地帖」他、村文書。嘉永6年（1853）早魅治水関係文書。
	3	高末部落文書	寛文11年（1671）亀谷山争、タタラ製鉄関係文書。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	4	高末松上神社	祭神は國常立神、須佐男神。創立年月は不明。明治6年（1873）10月に村社に列せられる。昭和4年（1929）に常立神社、三柱神社を合祀する。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
民間説話・ 俗信	5	久斗川の役行者伝説	※『ふるさと浜坂シリーズ1「ふるさと浜坂散歩みち」』（平成4年、浜坂町教育委員会発行）p121 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	6	高末引谷遺跡	古墳時代の散布地。土師器片が散布。
	7	高末遺跡	縄文時代～中世の散布地。縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・矢じり・サヌカイト片等、縄文・弥生の遺物が多数散布。
古墳・ その他の墓	8	高末引谷古墳	古墳時代の古墳。全壊。木棺墓・土器棺を検出。
	9	松上古墳	古墳時代の古墳か。
その他の遺跡	10	七理重恵生家跡	七理重恵は、明治20年（1887）に高末村で、父重兵衛、母もとの長男として生まれた。昭和58年（1983）に高末地区により重恵の生誕地に顕彰碑が建立された。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	11	久斗川のバイカモ	浅くてきれいな流水中に生える多年草。兵庫県レッドリスト（植物）ではBランク（兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧）に位置付けられている。
	12	高末松上神社の大スダジイ	高末松上神社の本殿の裏山にご神木のごとく枝葉が茂る。幹回りが約5mあり、正法庵の大スダジイに次ぐ古木である。